

第7回・夏休み自然観察記録コンクール

身のまわりの自然をよく見て、作文や絵にくわしくかいてみよう

だて・すけしげ
1932年三笠市生まれ
学芸大学札幌分校修了
三笠市立教育研究所員
空知教育研修センター講師

伊達佐重

○入選者

金賞

伊藤 結美 (恵庭市立若草小学校五年)

恵庭の川に住む水生昆虫

銀賞 (二点)

脇谷まなみ (函館市立東小学校一年)

わがやのはたけでなつ休みにとれるもの

山田悠太郎 (札幌市立藻岩小学校二年)

バッタのけんきゅう

銅賞 (七点)

刀禰 浩一 (札幌市立宮の森小学校六年)

ぼくがこの夏であった水生昆虫

佐藤しほり (幕別町立途別小学校六年)

幻の花「つきみそう」を育てて

坂 和優 (札幌市立緑丘小学校五年)

この夏に出合った自然

久保百合香 (旭川市立江丹別小学校三年)

モンシロチョウのかんさつ

中村 圭佑 (札幌市立藤の沢小学校三年)

キアゲハとぼく

土井みずき (函館市立金堀小学校二年)

なつ休みわたしがつかまえた虫たち

鈴木 天理 (滝川市立東小学校一年)

アゲハになったよ

佳作 (二十一点)

木下 大輔 (旭川市立啓明小学校六年)

星の観察

吉 政隆 (旭川市立神居小学校六年)

夏の昆虫

藤井 志帆 (札幌市立白石小学校六年)

いろいろな卵

浜 礼葉 (千歳市立泉沢小学校六年)

アカハラの親子

稲葉 貴子 (函館市立柏野小学校五年)

コケのひみつ

竹中 諒 (札幌市立信濃小学校四年)

夏日記

政田 駿 (札幌市立南の沢小学校四年)

アリジゴクとウスバカゲロウ

桜井 賢哉 (帯広市立東小学校四年)

夏休みに見つけた昆虫

平道 啓吾 (恵庭市立松恵小学校三年)

大好きな虫たち

小上 拓也 (札幌市立あいの里西小学校三年)

おじぎそうのふしぎ

作内 彩希 (札幌市立開成小学校三年)

メダカをかんさつして

大港 雅也 (岩内町立東小学校二年)

なつの友だち

千葉 慶宜 (栗山町立栗山小学校二年)

トノサマバッタ

鈴木 生 (栗山町立栗山小学校二年)

ぼくのこん虫ペット

湯浅 悟 (札幌市立苗穂小学校二年)

クワガタとカブトムシのかんさつ日記

吉田 圭吾 (七飯町立七重小学校二年)

クワガタのかんさつ

浜本 健汰 (苫小牧市立豊川小学校二年)

キアゲハのせいちよう

秋葉 凜樹 (函館市立東山小学校二年)

ぼくは虫はかせ

渡辺 詠虹 (旭川市立春光小学校一年)

うちでかってるスズムシ

山本 一将(教育大附属函館小学校一年)

夏休みのかんさつ十題

坂 昌樹(札幌市立緑丘小学校一年)

はさみむしのかんさつ

○学校賞

。札幌市立西野小学校

。同 太平南小学校

。同 宮の森小学校

。同 緑丘小学校

。由仁町立三川小学校

優秀作品紹介

金賞

恵庭の川に住む水生昆虫

恵庭市立若草小学校五年

伊藤 結美

〈研究のきっかけ〉

わたしは二年前から、「ヤマベの会」で茂漁川のそうじをしています。川には、カンやごみ袋が時々落ちていますが、よく見ると水の中にヨコエビや小さな昆虫が住んでいることに気づきました。そこで干歳や恵庭の川の観察会にいき、川にはカワゲラ、カゲロウ、トビゲラのなかまなど、いろいろな種類の水生昆虫がいることがわかりました。

〈研究を終えて〉

四月から八月十八日までの間に、五十三回も川に行きました。夏休みに入ってから毎日のように川に行ったり、昆虫の名前を調べたりしてたい

へんでした。はじめは、川に住む昆虫で水のきれいさを調べようと思っていました。が、恵庭の川はどこの川もすぐに中に入って遊びたくなくなるほどきれいなので、漁川を中心に昆虫の生活のちがいをよく観察することにしました。(省略)

川の流れや川底のようすによってカゲロウの仲間が住んでいる種類がちがうことや、トビゲラの仲間は種類によって巣の作り方がちがうことがわかりました。この研究でエコスクールの人たちや、ふか場の伊藤富子先生と知りあうことができ、水生昆虫についていろいろなアドバイスをしてくれました。(省略)

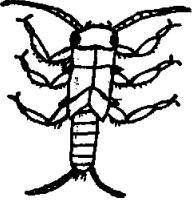
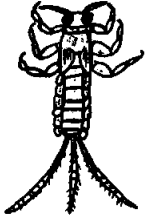


川は上流、中流、下流で流れの速さや川底のようす、水温がちがっていて住んでいる水生昆虫もちがうことがわかりました。同じ場所でも流れの速い所とおそい所があり、春と夏では水の量や周りのようすがぜんぜんちがっていました。雨の後は水の量が増えて流れがすぐくは速くなってにごっていました。

雨の日の後は流れが強くあぶなくて観察できないし、石にっいている藻で足がすべってころんだり、カにさされたり、ヘビがでてきたり、いろんなこわい事もありました。でも、石をは

へんでは、川に住む昆虫で水のきれ

ぐったら昆虫がたくさんついているのを見ると、うれしくなりました。(以下省略)

川に多い虫4グループの見わけ方

カワゲラの仲間	カゲロウの仲間	トビゲラの仲間	ユスリカの仲間
①足が3対、つめは2本 ②尾は2本で体長の半分 ③全体にごつごつしている ④せなかにはねのかわが見える	①足が3対、つめが1本 ②尾は2本か3本で体長の半分から1倍くらい	①体はいも虫型、尾はない ②足が3対、つめは1本 ③巣に入っているものが多い	①頭だけかたく体はやわらかい ②体は細長い筒型 ③長い尾はなくむねに短い足が1対
			

伊藤さんは観察の経過を一さつのノートにくわしく記録し、さらに模造紙にまとめました。この図はまとめ図の一部です。

虫の名前	トノサマバツ	つかまな日とはし	7月28日
------	--------	----------	-------

藤岩山に車で7月28日にいってたら天ぼろの光の下にトノサマバツがいました。アマガエルよりもめずらしいのでうれしかったです。しゅくケースに入るまで大きくなりました。トノサマバツはけんきに7月28日からけんきにがっています。

山田さんは画用紙7枚を横につなぎ合わせて、折りたたみ式の観察記録にしました。その中に多くの絵と、くわしい観察文をつけています。

(図をかいている。) うんこは、青とほい色でした。一回草を食べたらすぐにうんこをするところを見ました。

このバツは二か月生きます。卵からとつぜんに大人(になる)かと思ったら一令幼虫からいるんなもの(へんか)があった。

しゅべたことかんわしたこと④

トノサマバツの卵から大人までのことを書きました。バツは、12枚がうります。卵からとつぜん大人かと思ったら一令幼虫からいるんなもの(へんか)があった。

しゅべたことかんわしたこと

銅賞

ぼくがこの夏であった水生昆虫

札幌市立宮の森小学校六年

刀襦 浩一

ぼくは今年の夏、各地で水生昆虫を探りました。もともと昆虫の中では特に水生昆虫が大好きなのでまとめてみました。

去年まで住んでいた根室では、ルリボシヤンマのやご、ゲンゴロウより少し小さめのゲンゴロウモドキを採ってきました。北見では、ガムシという水生昆虫では珍しい草食性(幼虫時は肉食性)の虫を、月形町ではゲンゴロウを、札幌の西岡公園では、メスがオスの背中に卵を産み、オスはそれがふ化するまで大切に育てるといふその名の通りのコオイムシを採ってきました。

道南の八郎沼ではミズカマキリが採れました。ミズカマキリといってもカマキリの仲間ではなくカメムシの仲間、前足がカメラのようなのでエサを採る時カマキリに似ているからです。この沼では前にオオコオイムシのぬけがらを採ったことがあるのでいると思います。あとおたまじゃくしで冬を越すウシガエルも八郎沼にはいます。このおたまじゃくしは、アマガエルなどのおたまじゃくしの五倍以上の大きさになるのがあります。(省略)

昆虫は水生昆虫にかぎらず、観察しているとおももしろいので大好きです。いつまでもこの虫たちがすんでいることができる自然が、変わらずにそのままいてほしいと思います。

水生性水生昆虫 (池の平川や谷川など可成り広い)

- きれいな水 (カスミ、ブユ類、カワゲラ、トビケラ、カゲロウ、ヒトコ、オビ)
- やや汚れた水 (ヘビシ、トビケラ、カゲロウ、セラフ、ロマンシ、ヒル、ミズムシ)
- 汚れた水 (カゲロウ、ヒル、ミズムシ、セズユスリカ、イトミミズ)
- 大きな汚れた水 (セズユスリカ、イトミミズ)

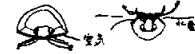
◎ 汚れた水の中でくらうのは、幼虫時代で、成虫になると陸でくらう。



図 2

水生昆虫の産卵と食の場所

おもに腹部の下
ガムシ マツモムシ



羽と背中の中いだい
ゲンゴロウ コイムシ

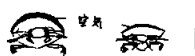


図 3

＊ぼくがこの夏採った水生昆虫とその場所

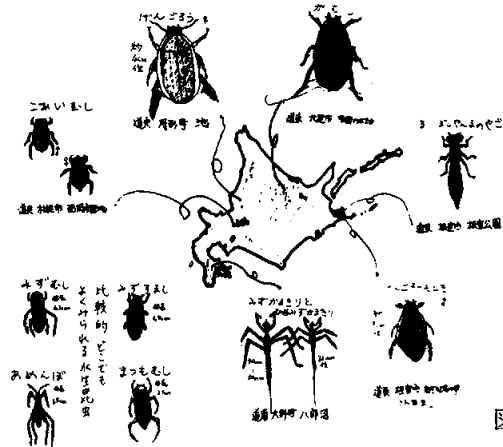


図 1

銅賞

幻の花「つきみそう」を育てて

幕別町立遠別小学校六年
佐藤しほり

三年前、新聞でこんな(ツキミソウの)記事を見つけてきました。育ててみたいと思って申し込んだら(一部略)追加分を送ってもらうことができました。その年、すぐに種を半分植えてみました。でも、育て方が悪かったのか、大きくならないのでだめになってしまいました。

次の年、残っていた種を植えました。何とか一つだけ十五センチくらいになったと思ったら、いつの間にか花が咲き終わっていて、がっかり。その後、にできた種だけは、大切に取っておきました。去年は何もしなかったけれど、今年も小学校生活も最後なので、「せつたいあのツキミソウを咲かせたい」と思いました。四年目の挑戦です。(省略)

成長の様子

五月二十六日(金) 種を植えた

前に芽が出なくて失敗しているので、どうしたら良いのか考えました。そして、半分は一晩水につけてみて、水につけていない方と比べてみることにしました。

五月三十日(火) 芽が出てきた

一晩水につけてから植えた種から芽がでてきました。ふた葉は一ミリです。水やりも前は下からすい上げさせて失敗したので、朝と夜にきりふきで上か

☆これが『つきみそう』!

夕方に咲きはじめて夜の闇中きれいに咲いています。

次の日の朝しほみはいめるとたんじんに色になっていきました。



私のつきみそうは37cmになりました。

らかけて土がかわかないようにしたら成功しました。

六月六日(火) 本葉が出てきた

一晩水につけた方は、本葉も出てきました。水につけていない方からは、まだ一つも芽がでてきません。

六月十三日(火) かたまつた苗を広げた

本葉がふた葉よりも大きくなりました。葉と葉がぶつかりあうので、ピンセットで場所を広げてやりました。

六月二十七日(火) 本葉がそろってきた

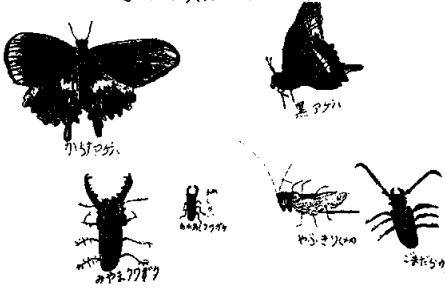
本葉の大きさは三・五センチになりました。葉の数も五まいになりました。水につけなかった種の方からは、とうとう一つも芽が出てきませんでした。種を植えてから一か月たちました。順調に育っているの、大きな苗をはちに植えかえました。(以下省略)

- なつ休みわたしがつかまえた虫たち
- アゲハになったよ

函館市立金堀小学校二年 土井みずき

8月12日

乙部町ばっちゃんの家のまわりでつかまえた。



なつ休みわたしがつかまえた虫たち

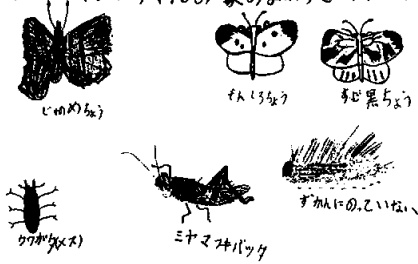
8月10日

おおの町きじひき公園でつかまえた。



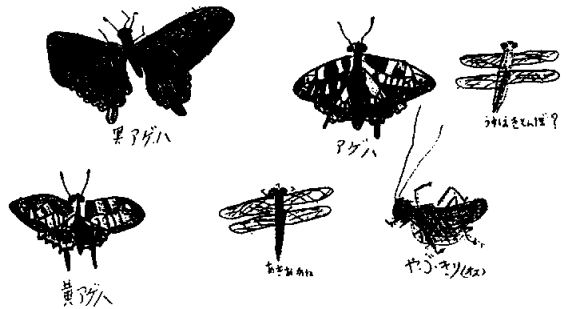
8月14日

乙部町ばっちゃんの家のまわりでつかまえた。



8月13~14日

乙部町ばっちゃんの家のまわりでつかまえた。



キアゲハとぼく

札幌市立藤の沢小学校三年 中村 圭佑

今から四年前、ぼくはようち園の年長組の時、友だちとうらのミツバ畑に行ったら、緑の太くしてしまふような虫がいました。後でじてんで調べてみたら、同じよう虫がいました。名前の所を見たらキアゲハと書いてありました。(省略)

虫かごの中にイチゴジャムのびんに水を入れてふたの所にサララップをはり、それに穴あけてミツバをいけてキアゲハのよう虫をかいました。そうしたら、よう虫がミツバをむしゃむしゃたべて、どんどん大きくなってさなぎからちょうちょうにへんしんして、たのしかったです。

それから少しして、ミツバ畑にキアゲハがたまごをうみにきました。まるくて小さくてきいろいたまごです。キアゲハは、しっぽをまげてうんでいました。たまごは一りぐらいいました。一まいの葉っぱに一つぶ、またはなれた葉っぱに一つぶ、なんで一まいの葉っぱにいっぱいうまないんだらう。それは、まだなぞなんです。(省略)

けっこんしたメスは、またぼくのミツバ畑にたまごをうみにきてくれる。ミツバのほかにもパセリ、イワミツバ、人じんにもうみにくる。ぼくはキアゲハやアゲハを四年間そだてているけど、ミヤマカラスアゲハもそだててみたい。(省略)

審査を終えて

まとめ方に工夫を

審査委員長 伊達 佐重

おどろきました。コンクール作品が二百三十四点も集まったのです。北海道新聞に四回も広告を出していただいたおかげだと感謝しています。

金賞は三年連続で伊藤結美さん。上・中・下流にすむ水生昆虫を調べる方法や、まとめ方がずば抜けていて申し分のない内容です。

銀賞の山田悠太朗さんは、好きなトノサマバッタを飼いながらその動きを楽しさが伝わってくる絵と文にしました。また、脇谷まなみさんはわが家の畑でとれたピーマンやキュウリの数

を根気よく調べて記録しました。

銅賞には、わくわくしながらの虫とりを絵本にした虫博士をみざす鈴木天理さん、キアゲハを幼虫から成虫まで育てた中村圭佑さん、「なぜだろう？」の目を昆虫や植物などに広く向けた坂和優さん、夜に咲く月見草を育てて四年目に成功した佐藤しほりさん、道内各地の水生昆虫を調べた刀彌浩一さん、アゲハチョウを育てたり、採集した昆虫を上手にスケッチした土井みずきさん、モンシロチョウはどんな色が好きなのかを調べた久保百合香さんが選ばれました。

ここで、コンクールに応募されたあなたに、次からの作品でぜひ工夫してほしいことを伝えておきます。それは「絵には言葉を、文には絵を」そえて仕上げるといふ基本です。そうすれば、自然から受けたあなたの感動がよりよく相手に伝わると思います。

来年のあなたが、わくわくしながら観察し楽しみながらまとめている姿を思いうかべ、またコンクールに参加してほしいと願っています。

(二〇〇〇・一〇・二七の道新より転載)

第7回夏休み自然観察記録コンクール賞品

- 金賞(一人) 賞状、図書券、カレンダー
 銀賞(二人) 同、同
 銅賞(七人) 同、同
 佳作(二十一人) 同、ビデオ、同
 学校賞(五校) CD-ROM(2)、同(2)

審査委員

- 佐藤 謙 (副会長)
 伊達 佐重 (常務理事)
 熊木 大仁 (常務理事)
 福地 郁子 (常務理事)
 大久保フヨ (理事)
 佐藤 浩三 (北海道自然保護協会会長)
 伊達 佐重 (北海道新聞野生生物基金理事・事務局長)

学年別応募点数と入賞者数

学年	応募点数	入賞者数					計
		金賞	銀賞	銅賞	佳作		
1	43		1	1	3	5	
2	70		1	1	7	9	
3	47			2	3	5	
4	28				3	3	
5	24	1		1	1	3	
6	22			2	4	6	
計	234	1	2	7	21	31	

第7回 夏休み自然観察記録コンクール 作品募集

◎募集テーマ/身のまわりの自然をよく見て、作文や絵に詳しく記述しよう。

◎応募資格/道内に在住する小学生。

◎応募要項/作文用紙は自由な用紙。学年は絵日記より学年とあわせてよい。絵は墨汁、水彩、大書き自由。応募の例として(1)祝状 (2)作文と絵 (3)種だけなど自由。作文は漢字、絵は墨にそれぞれ応募する。(種、住所、氏名、学校名、学年、電話番号を明記してください)

◎募集期間/2000年8月18日(月)必着(郵送の特等)

◎入賞後/10月下旬までに北海道新聞上で入賞者を発表し、本人または保護者へ小学校へ表彰状を送ります。

◎賞品/7080-0003 札幌市中央区北3条西11丁目 道新ビル6F (株)北海道新聞編集局 受付 011-251-5465

◎賞金 1名(賞状、図書券10,000円、記念品)
 銀賞 2名(賞状、図書券7,000円、記念品)
 銅賞 6名(賞状、図書券5,000円、記念品)
 佳作 20名(賞状、ネーチャードキュメントビデオ)
 学校賞 数校(賞状、ネーチャードキュメントビデオ)